



# イタリアンライグラス 新品種「タチムシャ」のご紹介

雪印種苗㈱ 千葉研究農場

## 小 槙 陽 介

### はじめに

イタリアンライグラスは、府県の冬作の代表的牧草として幅広く利用される重要な草種であり、当社では極早生から晩生まで、様々な利用体系にあった品種を開発・普及してきました。現在、関東以西を中心として、夏作のトウモロコシと組み合わせやすいタチワセなどの早生クラスの品種が最も多く利用されています。しかし、九州など西南暖地においては、早生品種の収穫適期の天候がやや不安定なこともあります。そこで比較的天候の安定した時期に収穫適期を迎える、サイレージや乾草利用に適する中生品種の開発が要望されていました。

今回、当社育成品種のラインアップに、中生の新品種「タチムシャ」が加わることになりましたので、その育成経過と品種特性、および利用方法について紹介致します。

### 1 育成経過の概要

#### 1) 育種目標



イタリアン「タチムシャ」  
サイレージ・乾草に最適

主として府県におけるトウモロコシやソルガムの前作用として秋播き、翌春1~2回利用に適し、中生で耐倒伏性に優れ、サイレージまたは乾草利用適性の高い多収品種。

#### 2) 育種方法

集団選抜法及び母系選抜法。

#### 3) 育成場所

雪印種苗㈱千葉研究農場及び宮崎研究農場。

#### 4) 育成経過

(平成元年秋~2年春)

宮崎研究農場において、ガルフ、ヤマアオバ、及びガルフとタチワセ、ガルフとタチマサリの交雑系統、その他育成系統を育種母材とし、中生で直立型の個体を選抜し、個体別に採種した。

(平成2年秋~3年春)

上記選抜種子を用い、母系別に個体植えの選抜圃場を設置し、中生で直立型で草丈が高く、茎が太く倒伏に強い個体を選抜し、個体別に採種した。

(平成3年秋~4年春)

前年同様に母系別に個体を養成し、上記と同様の選抜基準で選抜し、個体別に採種した。

(平成4年秋~5年春)

牧草と園芸・平成9年(1997)6月号 目次 第45巻第6号(通巻532号)

□府県向・イタリアンライグラスラインアップ.....	表②
□イタリアンライグラス「タチムシャ」のご紹介.....小槙 陽介 1	
■沖縄・南西諸島に適する冠さび病抵抗性えん麦の紹介.....親泊 元治 5	
□北海道向・夏季の草地更新.....高山 光男 8	
□牛群管理モニターによる乳生産 受胎に影響を与える諸条件の解析事例.....沼原 健二 11	
□自社インゲン品種ラインアップ.....	表③
□自社エンバク・スーパーハヤテ「隼」.....	表④



写真1 タチムシャのガッチャリした草姿

個体別に採種した種子を等量混合し、千葉にて採種圃場を設置し、不良個体を淘汰したのち採種し、これを育種家種子とした。

(平成5年秋～)

系統名S I～7として、千葉及び宮崎にて生産力検定試験、個体特性検定試験、各種栽培試験を実施した。その結果優良と認め、平成6年12月、農林水産省に品種登録を申請した。

## 2 品種特性

### 1) 草型・草姿

草型は、タチワセ、タチマサリと同様に強い直立型を示しますが、葉先はやや下垂します。2倍体品種の中では葉幅は広く、茎もやや太めです。早春から生育旺盛で草丈が他品種と比べ高く、タチマサリと似た大型の草姿をしています(写真1)。

### 2) 出穂期

早生品種のタチワセより10日前後遅く、コモン(普通種)と同じ中生品種で、宮崎では4月下旬、千葉では5月上旬に出穂期に達し、収穫適期となります。

### 3) 耐倒伏性

タチワセ、タチマサリと同様に強程で、コモン(普通種)が出穂前に倒伏してしまうのに対し、タチムシャは出穂期になっても倒れにくく、耐倒伏性に優れています。(写真2)。

### 4) 耐寒・耐雪性

耐寒性は中程度で、北関



写真2 タチムシャは倒伏に強い (左側:コモン)

東までの栽培は問題ありません。耐雪性は、新潟での現地試験の結果からタチワセやタチマサリと同程度であり、やや弱と判断されます。

### 5) 収量性

早春から生育旺盛で、出穂期刈り1番草の乾物収量は、宮崎でコモン(普通種)よりやや多収、千葉では同程度であります(表1)。再生はコモンより早く良好で、2番草の収量も多収となります。

### 6) 乾物率

コモンと比べ乾物率が高いので、予乾・乾燥効率に優れ、サイレージや乾草利用に適します。

### 7) 春播き性

春播きにおける出穂性は早生品種と同等で、収量は比較的多く、夏播きムギ類や飼料かぶの後作など、早春播きでも利用できます(表2)。

## 3 利用方法及び適応地域

### 1) 利用方法と作付体系

タチムシャは中生の2倍体品種で乾物率が高く、倒伏に強いため降雨後でも根元まで乾きやすく、むれが少なく、また刈取りがしやすいなどの特徴があり、予乾・乾燥効率に優れていることから、青刈りはもちろん、特に乾草やサイレージ利用に

表1 タチムシャの試験成績

(平成8年：雪印種苗研究農場)

品種名	出穂期		耐倒伏性 (*)		出穂期の草丈 (cm)		乾物率 (%)		生草収量 (kg/10a)		乾物収量 (kg/10a)	
	千葉	宮崎	千葉	宮崎	千葉	宮崎	千葉	宮崎	千葉 (%)	宮崎 (%)	千葉 (%)	宮崎 (%)
タチムシャ	5/7	4/30	8.7	7.0	130	145	13.4	22.6	8,010( 84)	5,149( 83)	1,073( 98)	1,164(111)
コ モ ン	5/6	5/1	1.3	1.7	112	121	11.4	17.0	9,538(100)	6,176(100)	1,090(100)	1,052(100)

\*評点 1：極弱～9：極強

表2 春播きの試験成績

(平成8年:千葉研究農場)

品種名	出穂期	耐倒伏性 (*)	出穂期の草丈 (cm)	乾物率 (%)	生草収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)
タチワセ	5/26	8.7	120	13.9	3,627(100)	503(100)
タチマサリ	5/26	8.7	124	12.8	3,853(106)	494(98)
タチムシャ	5/31	9.0	126	14.6	4,133(114)	605(120)
マンモスB	6/1	8.0	122	13.2	4,466(123)	589(117)

\*評点 1:極弱～9:極強 播種日:平成8年3月21日

刈取日:タチワセ、タチマサリ 6月3日 タチムシャ、マンモスB 6月10日

適しています。また、ゴールデンウィーク前後の比較的天候が安定した時期（関東5月上旬、西南暖地4月下旬）に収穫期となる出穂期に達するため、良質の乾草やサイレージが調製しやすいという利点があります。

タチムシャの収穫後は、トウモロコシやソルガム、暖地型牧草を作付けします。図1に、タチムシャを利用した作付例を示しましたので参考にして下さい。

## 2) 混播利用

### ① 晩生品種との混播栽培

#### 《利用性の改善のために》

マンモスBやエースのような晩生品種は再生力が強く、多回刈りに適していますが、水分含量が多く乾きにくい、出穂期までおくと倒伏しやすいなどの欠点があります。そこで、中生で乾物率が高く、耐倒伏性の優れるタチムシャを混播することにより、収穫時期を早めるとともに全体の乾物率を上げ、予乾・乾燥時間を短縮し、さらに耐倒伏性の改善も期待できます。混播割合はタチムシ

ヤ1.5 kg/10a、マンモスBまたはエース2.0 kg/10aとします。収穫は、タチムシャの出穂期を目安に行います。

#### 《刈取り適期幅の拡大のために》

良質で飼料価値の高いサイレージや乾草調製のためには高TDN

（高消化性）の期間（出穂始め～出穂期）に刈取り、利用することが大事です。刈遅れるとTDN（消化率）が低下し、結実期では乾物収量が高くなるものの、TDN収量が刈取り適期の3/4に低下します（図2）。しかし、実際の現場では、天候や他の作業の都合で刈遅れになってしまうケースが多いのが実態です。そこで少しでも高TDN水準を維持するために、早晚性の異なる品種を混播することにより、飼料価値の急激な低下を回避でき、刈取り適期の幅が広がります。

図3は、西南暖地におけるイタリアンライグラスの品種・生育時期別TDNの推移と収穫適期のモデルを示しています。ここで仮に、刈取り適期を乾物中のTDNが65%までの時期とすると、混播比率を半々とした場合、早生のタチワセに中生のタチムシャ、中生のタチムシャに晩生のマンモスBを混播することにより、単播に比べ、約5日程度刈取り適期幅を延長することができます。

### ② ムギ類との混播栽培

#### 《夏播きムギ類との混播利用》

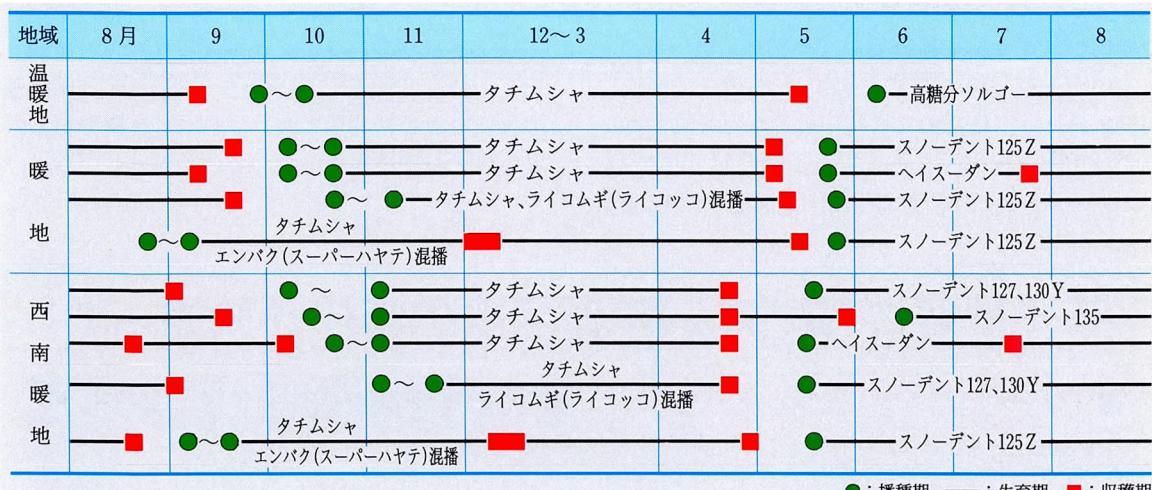


図1 タチムシャを利用した作付体系例

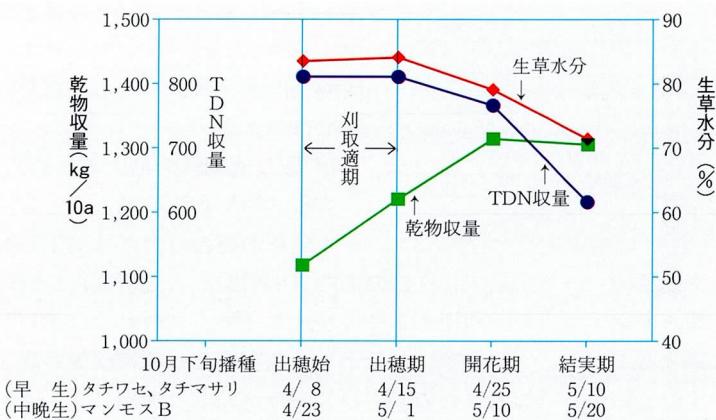


図2 イタリアンライグラスのステージ別収量と水分の推移（南九州）

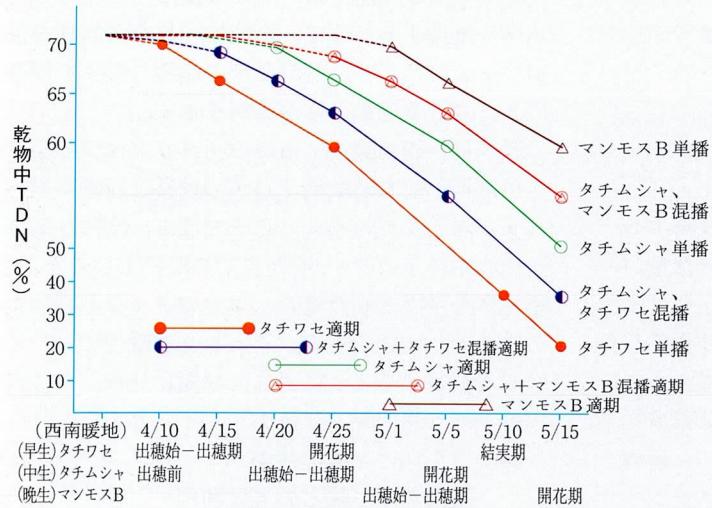


図3 イタリアンライグラスの品種・生育時期別TDNの推移と収穫適期(モデル)

年内はムギ主体で、翌春にはイタリアンライグラスの再生草が利用でき、連続して省力的に多収が得られます。播種期は8月下旬～9月上旬で播種量は10a当たり「タチムシャ」3.0kgにエンバク「スーパー ハヤテ隼」3.0～4.0kg播種します(図1)。

以上イタリアンライグラスの新品種「タチムシャ」の特性と利用について述べましたが、本品種の長所を上手に利用され、少しでも良質の自給飼料生産と利用の場で役立てていただければ幸いです。

## 時代は既にアクレモ新酵素の時代が始まった

### ●スノーラクト-L アクレモパウダー

20 kg = 40 t 分  
5 kg = 10 t 分

- ラムノーサス種乳酸菌に新酵素を配合したパウダータイプ。
- 格段にパワーアップされたオリジナル新酵素。
- 材料草1tに500gをそのまま混合。

### ●スノーラクト-L アクレモスプレー

1袋 = 10 t 分

- ラムノーサス種乳酸菌に新酵素を配合したスプレータイプ。
- パワーアップされた新酵素の溶解性が向上し、お手軽に。
- 材料草10tに1袋を10lの水に溶かしスプレーする。

## 《ライコムギ「ライコッコ」との混播利用》

耐寒性が強く、耐倒伏性抜群のライコムギ「ライコッコ」の混播で、遅播きイタリアンライグラスの冬枯れ防止や倒伏の軽減、増収効果が期待できます。播種量は10a当たりライコムギ4.0kgに対して「タチムシャ」3.0kgの割合で混播します(図1)。

### 3) 適応地域と栽培上の注意点

タチムシャは関東以西の冬作用として広く利用可能ですが、前述したように、耐雪性はあまり強くありませんので、根雪日数が80日を超えるような地域での栽培は避け、エースやミユキアオバなどの耐雪性の強い品種を利用して下さい。

また、晚秋や晚春から初夏に多発する冠サビ病に対する抵抗性は中程度で、タチワセなどの早生品種より強いので、9月播きや春遅くまでの利用にも適しますが、いもち病等による立枯れの心配があるので、極端な早播きは避け、九州南部での播種期は9月中旬以降が良いでしょう。